

ドイツ・ミュンヘン発：デザイナージュウリー発掘に最良の場  
《inhorgenta europe 2004》フォトレポート



6. パネルディスカッション風景  
7. ドイツを代表するジュウリー「Niessing」の代表：ヨハン・エクスナー氏  
8. 同じくドイツらしいジュウリー「Atelier Bunz」のジョルジョ・ブンツ氏



26

ドイツ・ミュンヘンで開かれるヨーロッパでも最大級のジュウリーと時計の国際的専門見本市《inhorgenta europe 2004：インホルゲンタ2004》が、2月20日～23日に開催されました。今年、31回目を迎えるこのトレードフェアには、38カ国・1,215社が出展。来場者数は、昨年の30周年記念展には届かなかったものの27,000人。海外からの訪問者は2%増加し、世界中のバイヤーが、何か新しいモノを求めに足を運ぶよう

になったという、少し上向き景気を感じさせるものでした。会場は連日の盛況の様子で、特に、ジュウリーデザイナーが提案的な作品とディスプレイで紹介する「C2ホール」のDesign Podiumのコーナーや、Designer's Avenue、また、異素材などを多分にとり入れたアバンギャルドなジュウリーを見せたBrand Newのイベントも話題の一つでした。インホルゲンタの特徴は、即戦力の商品に加え、将来を見つめた展開がされ



ていること。デザインや販売戦略についてのパネルディスカッションもその一環。ここでは、同フェアのほんのさわりを紹介します。なお、2005年は2月25日～28日の開催です。



1. ミュンヘン国際見本市会場・航空写真による全景  
2. メーンのエントランス  
3. 人気だった「Designer's Avenue」  
4. 前衛的なジュウリーが並ぶ「Brand new」  
5. コンセプト・ジュウリーが紹介された「Forum Konzept」